

特定非営利活動法人  
日本雲南聯誼協會  
れんぎ  
Japan Yunnan Friendship Association

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階  
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261  
Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>  
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大廣場 2011 室  
Tel.+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野惠蘭  
印刷協力 櫻日経印刷 櫻技術評論社



# 彩雲の南

Japan Yunnan  
Friendship Association

第32号

会報

発行日 2010年（平成22年）2月15日

支援第22校老村小学校にて、2年生の女の子（2009年5月）



知識は  
運命を変える！



NO. 32

連報①西勒小学校完成！ | 連報②100万回の手洗いプロジェクト・第3回現地派遣...2頁  
25の小さな夢基金・サポーターまだまだ募集中！夢基金卒業生インタビュー...2頁  
小さな壁新聞プロジェクト発足 | 小普小学校出張授業報告...3頁  
協会ニュース | イベント情報 | 連載 他...4頁



●●●速報！その①●●●  
50の小学校プロジェクト

## 第21校完成！



異常気象の影響により工事が遅れていますが、協会「50の小学校プロジェクト」支援第21校目丙勒小学校（文山チワン族ミャオ族自治州砚山县江那鎮）の新校舎が、1月28日無事竣工を迎えました。丙勒小学校は1931年に創立し、実に79年の歴史を持っています。旧校舎は1961年に建てられた木造平屋建てで、耐久年数の限界を超えており、大変に危険な状態でした。新校舎は680平米の煉瓦・コンクリート製3階建て（一部4階建て）で、地元政府債務辦公室によれば、新校舎の完成により図書室・課外活動室・実験室・

ネットワーク教室などの配置が可能となると同時に、学区内の学齢児童をほぼ全て受け入れられるようになるということです。

一方、支援第22校目老村小学校の建設も順調に進んでおり、昨年12月の視察の際には、1月中旬の完成がほぼ確実であるという報告を得ています。春節が近い関係で入稿前に視察に入ることはかないませんでしたが、こちらも間もなく皆様に嬉しいニュースをお届け出来ることと思います。

なお協会では、5月半ばに両校の開校式ツアーや開催する予定であります。どうぞお楽しみに！

丙勒小学校、ピカピカの新校舎完成！



●●●速報！その②●●●  
100万回の手洗いプロジェクト

## 第3回現地派遣活動

今年1月6日よりひと月余りの日程で行われた第3回現地派遣活動。今派遣最大の目的でもある支援小学校の先生方への研修会は、2月7日から9日の3日間昆明市内で開催されました。長きにわたる準備を経てようやく最終日を迎えたその夜、二度の研修を見守つてきた斎藤順子さんが思いを綴ってくださいました。

本日、第2回100万回の手洗いプロジェクト研修が大盛況のうちに終了しました。約半年ぶりに再会した先生方は、変わらぬ笑顔、変わらぬ真面目さで、研修に参加してくださいました。

今回はフォローアップ研修ということで、前半は第1回研修で学んだ手洗いの重要性を児童またその家族の実践へと結び付けていく手段としてのペーパーサート

やポスター作りをひたすら行いました。絵を描き、色を塗り、はさみで切るという作業の裏には、知識と実践を結びつける重要な手段が隠されているのです。研修最終日の本日は、それらの手段（ペーパーサートやポスター）を使用しての各学校での模擬授業の発表です。これは、研修での学びの成果を発表する場だけでなく、先生方が他の学校の先生方のアイデアに触れ、お互いを刺激し合い、高め合うことができたら、との意味も込められています。やはり、他の学校の先生の授業に



触ることは貴重な機会であったようで、研修の中で最も！？熱心に聞き入り、また児童になりきって積極的に反応してくれていました。

プロジェクトの名前にある「100万回」の意味は、2年間のプロジェクト期間に対象児童らが手を洗う回数であると共に、終わりのない継続、という意味も含んでいます。ここまで手を洗えばもう大丈夫、ということはありません。継続すること、習慣づけることが何よりも大切なのです。先生方への研修は今回が最後となりますが、先生から児童へ、児童から村民へと手洗いの実践が広がり根付いていくこと、また、先生から他の学校の先生へもこれらの授業形式が広がっていくことを願い、プロジェクトはまだまだ続きます。

2010年2月9日昆明にて  
(斎藤順子=100万回の手洗いプロジェクト専門家)  
協会ブログ「雲南の郵便屋さん」では、今回の研修をリハーサルより最終日まで即日レポートしています。是非合わせてご覧ください♪  
[http://blog.canpan.info/yunnan/category\\_21/](http://blog.canpan.info/yunnan/category_21/)

25の小さな夢基金 サポーター募集中！  
●●●まだまだ

貧困地域の少数民族女子を受け入れるために設立された昆明女子中学・春蕾高校生クラス。「25の小さな夢基金」ではそんな春蕾クラスの女の子を応援しています。たとえ学費は無料であっても、彼女たちにとっては大都会昆明で生活していくこと自体が大変なこと。「勉強をして運命を変えたい」—そんな彼女たちの夢を応援してくださいませんか？現在、27人の新1年生があなたのサポートを待っています。（詳しくはホームページを御覧下さい。<http://www.jyfa.org/09yumeikin.html>）

①名前 ②民族 ③家族構成／一年の年収 ④好きな教科 ⑤趣味 ⑥将来の夢

- ①張芹 ②イ族 ③両親・妹の4人家族／120元（約1500円） ④国語・歴史・体育 ⑤読書・バスケットボール ⑥故郷の村の教師になりたい。私の故郷の多くの人は幼くて学校を退学しています。私はそんな若者に対し、科学技術のクラスを作って、人生に役立つ知識を教えたいです。
- ②季連梅 ②ジノ族 ③両親・祖母・弟の5人家族／1000元（約13000円） ④英語 ⑤絵を描くこと・習字 ⑥故郷に学校を建てるか先生になって、たくさんの子供たちに良い教育を受けさせてあげたい。子供たちに知識で自分の運命を変えてもらいたいです。
- ③陳紅 ②ワ族 ③両親・妹の5人家族／900元（約12000円） ④技術科 ⑤歌うこと・友達をつくること・子供と遊ぶこと ⑥医者になって皆の病気や祖母の目、それに母の病気を治したい。また故郷に知識をもたらし、環境保護組織を作って、住みよい村にしたいです。
- ④雀曉英 ②スイ族 ③両親・弟の4人家族／500元（約6500円） ④英語・国語 ⑤音楽鑑賞・歌うこと・読書・運動 ⑥医者になって傷ついた人を救いたい。社会にたくさん貢献したいです。また多くの知識を身につけ、故郷の人たちと一緒に努力して、故郷を良くしたいです。
- ⑤蒋芸 ②スイ族 ③両親・妹の5人家族／500元（約6500円） ④英語・数学・化学 ⑤読書・卓球・バスケットボール ⑥故郷に大きな道を作り、収穫の時に皆が収穫物を扱いで運ばなくていいようにしたい。それから養老院を作って、故郷の不幸なお年寄りが安心できる晚年をすごせるようにしたいです。
- ⑥熊雪双 ②デアン族 ③両親・祖母・姉・妹の6人家族／500元（約6500円） ④生物 ⑤草花や風景の絵を描くこと・歌うこと ⑥医者になって、お金が足りなくて治療できなかった姉の脊髄炎を治したい。また、村の伝統的な男尊女卑の思想をかえられるよう頑張ります。知識で運命を変えたいです。

### 卒業生の声

「25の小さな夢基金」では、昨年無事第一期の卒業生を送り出しました。卒業生たちは今、何を考え、どんな生活をしているのでしょうか。彼女たちの今を会員の皆様にご報告するべく、年明け早々の昆明女子中学で、卒業生の1人にインタビューを行いました。お話を伺ったのは吳家碧さん。今は雲南師範大学でベトナム語を専攻しています。久しぶりに母校に戻った彼女は、まるで故郷に帰ってきたみたいだと話してくださいました。



Q1 卒業して半年が過ぎましたが、生活はどうですか？ 充実した生活を送っています。高校生活とは違い、勉強以外の様々な面でも学ぶことがあります。大学構内の寮に住んでいますが、語学は声を出して読むことが大切だと思っているので、朝早く起きて、校庭でスピーリングの練習をしています。色々な活動にも積極的に参加しています。クラス長にも選ばれ、建国60周年の際に記念パーティーの企画に携わりました。パーティーはスピーチや出し物などでも盛り上がったんですよ。球技サークルにも入っています。昆明市内の大学は郊外の呈貢という地域に移設を進めているのですが、私も今は雲南師範大学の呈貢キャンパスで勉強しています。他の大学も次々とこちらに移ってきていて、高校時代の友人と頻繁に交流しています。

週末には大学の図書館で勉強したり、中国風クリープ屋や中学生の家庭教師のアルバイトをしています。色々大変な事もありますが、それでも今までの困難を克服してきた自分に自信を持っています。今までよりも更に強くなっていると思います。

Q2 今の春雷クラスの生徒に一言。今の生活を精一杯過ごして欲しいです。学校や社会の愛により得られた貴重な時間を大切にし、大学受験を頑張ってください。

Q3 日本の皆さんへのメッセージをお願いします。春雷クラスで勉強させて頂いて、心から感謝しています。この学校と皆さんの支援がなければ、今の私はいません。私の一步一歩のあゆみと今の成功は、すべて皆さんの愛のお陰です。本当にありがとうございました。

サポーターさんへのメッセージ：無事大学に進学することができました。本当にありがとうございました。お手紙に会社の経営状況が良くないとありました、今は良くなっていることを願っています。機会があれば是非雲南に遊びにいらしてください。

（取材 = 雲南支部）



今 年で設立10周年を迎える聯誼協会。協会の10年はまさに会員の皆さん、ボランティアの皆さん、そしてご協力・応援してくださる全ての皆さんあってこそこの10年間でした。日頃ながら協会の活動を支えてくださっている会員・ボランティアの皆さん。この度、そんな皆さんを中心となったプロジェクトが新たに発足致しました。あなたも協会の一員として、活動に参加してみませんか?「小さな壁新聞プロジェクト」ボランティアチームからのメッセージをご紹介します。

### ボランティアによるプロジェクト——

## 小さな壁新聞プロジェクトチーム発足!

雲南省の子供たちは、毎日どんなことを考え、暮らしているのだろう?

日本にいる私たちにとって、雲南省はあまりに遠い場所です。時間にすれば、8時間以上。お金にすれば、20万円近くがかかってしまう。少しでも子供たちの助けになるならと、無償の支援をつづける会員のほとんどが、子ちに直接会うことができません。



昨年11月に行われた第1回プロジェクト会議

ならばせめて、子供たちの日々の様子だけでも知ることはできないだろうか?そんな思いから企画されたのが、この「小さな壁新聞プロジェクト」です。

皆さんは、学校で「壁新聞」を作ったことはありますか?ある日、先生から真っ白な紙をばんと渡され、「好きなように新聞作ってごらん」と言われる。最初は、「こんな真っ白な紙に、何を書いたらいいのだろう」と戸惑うけれど、そのうち書きたいことがどんどん浮かび、気づけば真っ白な紙が立派な新聞になっている。——日本の子供たちなら、一度は経験したことのある壁新聞作りですが、では、雲南省の子供たちに紙を渡したら、いったいどんな新聞が出来上がるでしょう。当プロジェクトでは、新聞記者となつた子供たちに、文章もイラストもすべて手作りの壁新聞を作つもらいます。内容は、たとえば毎日の暮らしのこと。新しくなった学校のこと。はやっている遊びや、村に伝わる民話、お祭り行事のこと。家族や友達のこと。将来の夢の話……。完成した壁新聞は、自身の学校だけでなく、他の協会支援校や、日本の小学校でも展示されます。そしてなにより、日本から子供たちの成長を願う、私たち会員の手元に届けられます。

まずは、10周年記念式典で最初の壁新聞の展示を目指し、着々と準備を進めています。まだ少し先の話になりますが、子供たちの夢あふれる壁新聞の完成を、どうぞ楽しみにしていてください。

なお、当プロジェクトは、すべての企画・運営をボランティアが行っています。より充実した企画とするため、日夜、子供たちに負けじと活動しています。参加ボランティアは常時募集していますので、興味を持たれた方は、ぜひ東京本部までお問い合わせください。皆さまのご協力、心よりお待ちしております。

(小さな壁新聞プロジェクトチーム一同)

## 小菅小学校出張授業報告

昨日11月29日、山梨県小菅村の小学校で日本雲南聯誼協会の出張授業が行われました。今回協会を代表して講師を担当してくださったのは会員の平田栄一さん。その平田さんから、授業の様子が生き生きと伝わる素敵なレポートが届きました。

10月の中頃だっただろうか、聯誼協会東京本部から電話を頂戴した。12月に予定されていた開校式ツアーアの件かと思いきや、「小菅村って、平田さんのお家から近いですよね?」と。話をよくよくうかがつてみると、山梨県の小菅村の小学校で「国際理解集会」という授業を行つていて、今回雲南省の少数民族の話をほしいとの依頼があるのだが、弁士として行つてくれないだろうか、日時は11月29日の午前中、というお話をだつた。

小菅村ならよく知っている。山梨県に通じる奥多摩の入り口に住んでいる小生の自宅からなら、青梅街道を西に下つて(道路自体は上り道だが)、小河内ダムの先を上野原方面へ左折して直ぐである。小1時間のドライブだ。電車や鉄道は通っていない。交通手段はバスか車のみだ。なるほど、それで小生に臨時弁士の“白羽の矢”が立つたということか。それにもとめ、小菅村と雲南省、どのような経緯で講演会の依頼がきたのか聞いたところ、小菅村で村起こしに奮闘している小菅小PTAの佐藤さんという方が聯誼協会の中村理事と懇意の間柄で、国際理解集会のテーマについて相談したことが発端だとか。小生の力量に余るお役目とは思つたが、最大の欠点でもある“好奇心”がまたしても頭を持ち上げ、つい二つ返事で引き受けてしまった。

11月29日、約束の時間に合わせて小菅小学校を訪ねた。小菅小学校は全校生徒28人(1学年3人から5人ほど)で、先生が生徒を「名字」ではなく「名前」で呼ぶ(同姓が多いからかもしれない)、とてもアットホームで和やかな学校である。先生は校長先生を含めて6、7人くらいだろうか。若い先生が多い。校長先生のお話では、出生率が年々低下し、小菅村では新生児が年に数人だそうで、近隣の小学校では生徒のいない学年もあったり、学校の統廃合が進んでいるとのことだった。

校庭が臨時の駐車場に早変わりし、保護者の車が數台留まっていた。ご挨拶もそこそこに展示する資料や機関紙を会場へ運び、パソコンの映写準備に取りかかった。会場の“多目的ホール”は、もとは教室だったようだ。既に後ろ半分くらいのスペースに折りたたみのイスが並べられ、スクリーンも準備が整い、パソコンをプロジェクターに接続するばかりとなつ

ていた。協会本部から借用して来た民族衣装や楽器、教科書、機関紙などは、佐藤さんと中2の娘さんが手際よく展示してくれた。こちらはスライド映写の準備に専念することができ、あつという間に準備は完了した。

午前10時半過ぎ、生徒たちが元気よくホールにやってきて、「おはようございます」きちんと挨拶をしてくれた。それに続いて保護者のみなさんと学校関係の方々も入室。総勢50名ほどだろうか、“多目的ホール”に暖かな空気が溢れていたのは、暖房のお蔭だけではないようだ。



開始に先立ち安藤校長先生が「今日のお話を聞いて、「学校へ行く」ことの有り難さや幸せを考えてください」とご挨拶。それでなくとも緊張で手に汗をかいているというのに、一段とブレッシャーがアップ。持参のジャスミン茶で喉を潤した。

国際理解集会の主旨は「世界のいろいろなことを知る」ということだそうで、一昨年はタイの留学生を招いてタイ国について勉強したそうだ。今回は、中国に雲南省というところがあり、そこに少数民族が住んでいて、その子どもたちの多くが貧しさのために学校へ行けない状況にあること、聯誼協会が支援活動を行つてることなどの紹介を主眼に、協会本部が作成したパワーポイントのスライドショーを若干短めに手直ししたものを映写しながら話を進めた。

話を進めていて驚いた。話の合間に質問や発言が相次ぎ、生徒たちは少数民族の子供たちの姿に大きな興味を示してくれた。「ええ、こんなところを通うの?」「あんな道は危なくないの?」「落ちたりしないの?」などなど、スクリーンを食い入るように見ながら、こちらの話にもしっかりと耳を傾けてくれている。“感動”的の一言だった。当初、話に飽きられてしまうのではないかと懸念したが、そんなことは最後までなかった。お蔭で講演会は予定の時間をオーバーしてしまった。先生方、ゴメンなさい。

終了後、生徒たちに民族衣装や楽器に触つてもらつ

た。驚いたり、感心したり、不思議がつたり、「どんなもの食べているの?」「どんな遊びをしているの?」「けがをしたりしないの?」と素直な好奇心を投げかけてくれた。雲南省のことをどれほど理解してもらえたかはわからないが、興味は持つてもらえたようだ。後日、感謝文を書いて送つて頂けるとのことで楽しみである。



講演会を無事に終えて校庭に出ると、保護者の方々がまだ残っていた。これから校庭に水を撒いて、先生といっしょに“スケートリンク”を作るのだそうだ。小菅村では冬を迎えると代々行われてきたことだという。山に囲まれた村、生徒を名前で呼ぶ先生、子どもたちのためにスケートリンクを作るお父さんたち、高校に進学すると町へ出て寄宿する子どもたち、小菅村は雲南の村と共通するところが多い。大きな違いは、小菅の子どもたち、否、日本の子どもたちは“何の不安もなく学校に行くことができる”ということではないだろうか。日本では“学校へ行く”ことは当たり前のことがだが、実は“大事なこと”なのだとつくづく感じた。私は教科書を発行する出版社で30年間働いていたので、日本の教育や学校の事情についてはそれなりに知識と意識を持っているつもりでいたが、学校をこういう視点で考えたことはなかなかないと思う。小菅小学校訪問は私自身にとっても新たな勉強の機会となつた。帰り際、先生に、目下企画中の「小さな壁新聞」に小菅小学校も参加しませんかと提案したら、「それはいいですね!」と賛同を頂いた。雲南省の子どもたちが書いた壁新聞を目にした時、小菅小学校の子どもたちがどんな反応を示すだろうか、興味津々だ。

(平田栄一=協会会員)

## 協会は今年で設立10周年!

日本雲南聯誼協会は、皆様のお陰をもちまして2010年6月24日に10度目の創立記念日を迎えます。7月には記念式典を開催する予定ですので、どうぞご期待くださいませ。

**10** Thank you for  
th Anniversary



## 協会ニュース



昨年11月21日・22日の2日間、八王子いちょう祭りに出店致しました。

伝統あるいちょう祭りも今年で30回目。峰尾リーダーのご尽力のお陰で協会の参加も恒例となり、顔なじみの常連さんもできました。今年の来場者数は2日間でなんと約30万2000人！毎年大好評の動物風船コーナーやブーアル茶の試飲を行った協会ブースも大盛況でした。22日はあいにくの天気だったにも関わらず、多くの方がお立ち寄りくださり、協会の活動に关心を寄せてくださいました。お立ち寄り頂いた皆様、ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。今年もまた銀杏並木でお会いしましょう！

**【当日ボランティア協力（敬称略・順不同）】**

峰尾勝美（いちょう祭ボランティアリーダー）、峰尾洋子、井上祐子、井上ジャム、師清史、李虹雨、李賛、鈴木暉、佐々木英介、刁蓓蓓、小島香織、伊藤広樹、東郷浩 会場提供=小島様



12月8日、埼玉県飯能グリーンカントリークラブで協会主催のチャリティーゴルフコンペが開催され

## 鏡頭裏的世界 —レンズの中の世界—



NO.2 キミの目の輝きがすてきだ！

「100万回の手洗いプロジェクト」第3回派遣活動、遠福中心小学校視察にて。この笑顔に励まされます。

（薄田栄光 2010年1月11日雲南省福貢県架科底郷）

皆様のご投稿をお待ちしております！

【データ】 yunnan@yfa.org

【郵送】〒162-0846 新宿区市谷左内町21-13 1階  
日本雲南聯誼協会「会報投稿コーナー」係

※原則としてお写真のご返送は致しかねます。



血行不良は万病のもと！

- 健康維持したい
  - 免疫力を高めたい
  - 朝さわやかに自覚めたい
  - 美容が気になる
  - 体力増強したい
- そんな方にお勧めです。

042-659-2997

特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

ました。5度目となる今回のチャリティゴルフコンペには、平日開催にもかかわらず36名の皆さんにご参加頂きました。当日のスタートは朝8時半。絶好のゴルフ日和の中、皆様思いっきりプレーを楽しんで頂いたようです。プレーのあと成績発表でも、皆様に品物をお持ち寄り頂いたお陰で、全ての方に景品をお渡しすることができました。

また、当日頂戴したご寄付で、「25の小さな夢基金」の1年生3名を1年間支援することが決定致しました。協会では、3名を卒業まで支援するべく今年もコンペを開催する予定であります。今回ご参加頂けなかった皆様も、次回は是非参加をご検討くださいませ。



12月14日、雲南省の省都・昆明市の張祖林市長をはじめとする市政府および昆明市企業関係者9名が来日されました。市政府の依頼により、協会は15日夜の来日経済交流会をセッティング致しました。

ベトナム・ラオス・ミャンマー・タイ・インド・カンボジアの各国と境を接し、ASEAN自由貿易地域(AFTA10+1)、大メコン経済圏・珠江デルタが交錯する経済的に大変重要な位置にある昆明市。中国第4のハブ空港・アジア全域へ広がる鉄道網・バンコクやヤンゴンと結ぶ国際道路を持つ昆明は、広大な東南アジア・南アジアに相対する最前線の国際都市でもあります。今回の市長訪日はそのような昆明の現状を日本企業にアピールし、経済貿易交流を促すことが大きな目的のひとつでした。交流会当日は多くの日本企業関係者にご参加頂き、日見双方にとって大変意義のある夜になったのではないかと思いま

す。

【当日通訳ボランティア協力（順不同・敬称略）】

橋本、王珊、張南、及川勝洋、豊田永紅、李伏秋、大塚美佐子、小澤真理子、齊藤遙、刁蓓蓓、梁睿



12月19日土曜日、東京恵比寿にて毎年恒例のお楽しみ、チャリティ忘年会が開催されました。今回の参加者はなんと120名以上！日本各地はもとより、中国雲南省からのお客様にもご参加頂きました。

当日、まずはご来賓の皆様からのご挨拶からスタート。中国大使館劉領事、埼玉県信用保証協会都筑会長、華僑連合主席局主催にてご挨拶を賜りました。続く協会活動報告では、2009年度を振り返るスライドの上映を行った後、今年度協会活動の目玉のひとつである「100万回の手洗いプロジェクト」について、薄田プロジェクトマネージャーから報告がありました。報告では8月の研修の様子をビデオ上映した他、パネルシアターを実演。会員の皆さんにとどまらず、プロジェクトの具体的な活動内容を垣間見ることができます。

お楽しみのアトラクションは、能見伸宏さん率いるプランニューダンスマーケットによる歌とダンス。プロの技に皆で大興奮しました。その後も、恒例となりつつある花腰イ族の踊りやピンゴ大会などお楽しみが目白押し。気づけば予定時間を1時間近くオーバーし、最後は安田紀生子さんのバイオリンの美しい音色に酔いしれて、2009年の忘年会は幕を閉じたのでした。

**【当日ボランティア協力（敬称略・順不同）】**

大塚美佐子、張南、梁睿、貝塚大祐、豊田永紅、NORIE、小林穂、佐々木英介、峰尾勝美、近藤銘一、近藤森男、七田怜、三木秀隆、(㈱)プランニューダンスマーケット、安田紀生子

## イベント情報

2月

19日(金) 2009年度第4回役員会

★場所★東京本部事務局

27日(土) 小さな壁新聞プロジェクト  
第3回ボランティア会議

★場所★東京本部事務局

★主催★小さな壁新聞プロジェクトチーム

5月

下旬頃 第21・22校開校式の旅

★主催★日本雲南聯誼協会

## ご協力ください

協会の活動は皆様のご厚意によって支えられています。ご入会・ボランティア登録のお申し込みは随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。また、カンパは下記口座にて承っております。1人でも多くの子どもたちに夢と希望を届けるためにも、皆様の暖かいご支援・ご協力を心よりお待ち致しております。

日本雲南聯誼協会  
(ニホンウンナンレンギキョウカイ)

三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店  
普通口座 1300380

ゆうちょ銀行 00100-8-610935

## 編集後記

2010年初の会報をお届けします。今号は「100万回の手洗いプロジェクト」第3回現地派遣活動のため、昆明で編集を行いました。今回の派遣活動については次号で詳しく報告できると思います。日本はまだまだ寒いですが、昆明はもうすっかり春でした。10周年、どうもありがとうございます！

- 4 -